

会 議 記 録

作成部局課名 塩田地域自治センター

開催日	平成 21 年 1 月 30 日(金)	開催時刻	15 時から 17 時 30 分
会議名	塩田地域協議会(平成 20 年度第 11 回)		
出席者	委員 18 名(欠席者 2 名)		
事務局 出席者	出席職員 神林センター長 古川センター長補佐兼庶務企画係長 腰原観光振興係長、細川塩田公民館長		

会議次第

- 1 開会 (塩田地域自治センター長)
- 2 会長あいさつ (大口会長)

概 略 新しい年を迎え地域協議会も佳境に入ってきた。視察や議員懇談会で、よい意見が出され事業が進んでいる。意見書の回答により、地域自治センターもよい施設となると思う。地域の課題解決のために、お力添えをお願いしたい。塩田地域は、他の地域のリーダーとなるようがんばっていききたい。

3 協議事項

- (1) 塩田地域の観光について(担当課：観光課)

説明要旨(観光課)

資料による説明

- ・ 塩田地域のみ観光プランは特にない。
- ・ 市全体を7つのエリアに分け塩田地域は、「ローカル線で味わう田園エリア」としている。
- ・ 「塩田の庄」の使われ方や活用が問われている。他には別所線の活用も課題である。
- ・ 無言館までは来客が多いが、無言館から塩野神社までの周遊が課題である。別所温泉や文化財を活用した、滞在型観光を目指してはどうか。
- ・ ウォーキングの広報により問い合わせも多く、「のどかさ」を求めたグリーンツーリズムや小学生自然体験教室が実施される。
- ・ 旧西塩田小学校は、ロケ地としてフィルムツアーの計画もあり、観光営業として観光協会や行政などが連携、協力してPRしていきたい。
- ・ 別所温泉では、県などの補助金を活用する「別所温泉地区再生プラン」を計画して、地域の活性化を図ろうとしている。
- ・ 西塩田地域では、コア施設を活用するため観光ボランティアガイド養成講座を開催し、観光客に喜んでもらえる地域づくりを行っている。
- ・ 新年度予算では、観光宣伝振興事業においてビジョンモデル推進地区を塩田地区として、地域の青写真をつくる小委員会で協議したいので、協議会の意見をいただきたい。

主な意見

- ・ 別所温泉の活性化として、観光産業を主に住民を含めて活性化を図りたいと思っている。事業費は全体で約 5,000 万円、内県補助約 2,500 万円、市補助約 1,250 万円で残りは地元負担となっているが地域全体で考えている。
- ・ 別所温泉の案内板や看板は、この事業で統一されるのか。
- ・ 案内看板の統一は市全体で行うことが理想であるが、文化財の多い塩田からやりたい。(塩田では、各組織で作成した看板が多くあるので。)
- ・ 再生事業は、塩田全体へ広げていけばよい。看板には、「文化」を表示してはどうか。例として札所の案内など(遊歩道百選に選ばれた道よりもはるか昔から札所は存在しているので)観光客は、「表面的には、どこへ行っても一緒」としているので、差別化した看板や施設がよい。
- ・ 滞在型観光の例として、八十八ヶ所札所めぐりも良い。
- ・ 別所温泉の魅力はどうするかが重要であり、料金を安くして家族連れに来てもらうことも大切である。また、魅力の引き出し方として、地産地消も推進したい。
- ・ 地産地消を推進して農業の安定経営を図りたいものである。
- ・ 食の研究会を立ち上げたが進んでいない。安全、安心な食べ物を求める人が多くなって声が掛かり、紹介するがそれが進行していかない。農業経営者と旅館が連携できれば良いと思う。地産地消のルートが作られていないため、客の要求するものを作りたいがつながりがない。
- ・ 西塩田地区の営農活性化組織はがんばっている。東塩田地区も土が良いので、野菜作りに向いているが旅館と生産者のつながりがない。
- ・ 加工用りんごをジュースにして別所温泉へ提供しているが、規模が小さいためコスト高になってしまう。車山ぶどうは、マンズワインの「イランジュ」として旅館で提供している。砂糖の代わりに、シナノゴールドを使うすき焼きメニューを教えている。コストの高い商品を使えない旅館がある。
- ・ 料金の安い旅館を求める客も多く、値段は大きなポイントになると思う。ネットで温泉を探す時代であり、来客プランの工夫や客層をつかむことが必要である。東塩田の観光や文化財のアピールは必要であり、滞在のための選択肢を多くすると良い。
- ・ 魅力あるコースづくりも重要なことである。
- ・ 温泉 = 食事となるので、魅力ある食事を目指すべきであり、目玉となるものを考えたほうがよい。ため池は、心が癒されるので観光の材料として使ってもらいたい。
- ・ 観光の「方程式」を解いてみる必要がある。塩田は、風光明媚な土地であるが、住民が本気でそう思うのか多くの住民は、知らない・関心がないと思う。住民一人ひとりが関心を持って考えを持つべきである。
- ・ 上田市には、誘客のための宣伝が少ない。
- ・ 行政としての観光の位置付けは、どのようになっているのか。別所温泉の 10,000 円の料金は高いと思う。金額は、満足度で決まってくるものなので、心の通うおもてなしを希望する。
- ・ 湯けむり映画祭の案内など、心に残るような観光地を目指すべきである。

回答

- ・ 別所温泉の案内板や看板の統一は、再生プランの会議の中で行った。事業の性格上別所温泉や西塩田地区が先行した。塩田全体は、本計画のエリア外となってしまうので難しい。
- ・ 看板や公共サインは、合併協議にもあがっており、都市計画課が担当で検討中であり順次進めている。同じく地区外からの誘導公共サインについても検討中である。

(2) 学校支援地域本部事業について(担当課：塩田公民館)

説明要旨

- ・ 学校支援室の整備に、27人の地域ボランティアの参加をいただいた。県内34中学校区の中で、これほど突っ込んだ取り組みは塩田中学校だけである。
- ・ 環境整備ボランティアの説明会には、登録18人中11人が出席してくれた。2月28日には、「こみっと」主催で花苗植体験をして、プランターを学校へ飾る予定である。
- ・ 環境ボランティアへの登録と協力をお願いしたい。2月6日には、学習ボランティアの説明会を予定している。

主な質疑

- ・ 都合のつく時だけでよいので委員は、環境ボランティアに登録してもらいたい。出来るだけ多くの人に参加してもらいたいので、申し込みは随時行っており、土日参加や朝夕参加も歓迎する。
- ・ 子どもたちも、地域の人に参加してもらえればいいと思う。
- ・ 少しの時間での参加も可能とのことなので、参加したいと思う。
- ・ 学習の中に歴史や文化も取り入れてもらえばよいと思う。
- ・ ボランティアとして協力しないといけないと思っている。
- ・ 事業は3年間だがボランティアは、永遠に続けていきたい。地域と生徒のつながりを大切にして小学校にも広げたい。
- ・ 校外支援のテーマはないものか。例えば、寺での心を豊かにする精神教育など。
- ・ 体験学習も言われると思っていた。座禅もメニューの一つと思う。
- ・ 子どもが、支援室へ来るようにする方法はどうか。子どもが、来なくなるような仕掛けや対象者への学校としてのフォローが必要である。学校としての責任を果たしてもらいたい。子どもが参加するために学校として努力すべきである。

回答

- ・ 学校支援地域本部事業は、優秀な人材を育てるものではなく、地域に思いを残す子どもを育てるものであるので協力をお願いしたい。
- ・ 校外支援として全国的には、遠足ボランティアに参加するような例もある。
- ・ 小学校への拡大であるが、中学校用の教材はあるが小学校用の教材が不足している。

- ・ 学習ボランティアについては、2月6日に具体的な説明や話し合いを予定しているが、厳しい状況と思っている。
- ・ 何もしなければ、一步進むどころか後退してしまう。学校の先生と、じっくりと話し合いたいと思っている。塩田地区での第一歩と思っている。街中での声掛けからと思う。今後、検討や話し合いを詰めていきたい。

(3) その他（担当課：塩田地域自治センター）

主な質疑

- ・ 塩田平札所めぐりについては、協議会委員を中心にわがまち魅力アップ応援事業として取り組んでもらいたい。事業は、塩田地域しかないので、塩田からスタートしたい。
- ・ ため池についても事業化したいので、関係者で会議を開催し検討して欲しい。
- ・ 地域協議会だよりの発行に向けた会議の開催を予定している。
- ・ 別所温泉では、外国人観光客を呼び込む動きはあるものなのか。
- ・ 市の観光ビジョン戦略の中に入れてあるようである。来客者への最高のおもてなしを目指している。

4 その他
特になし

5 閉会